

「花壇地錦抄」には万葉という言葉があります。「白大和三かい」（まんやう）、「赤大和三かい」（万やう）がこれらの花の咲き方として解説にあります。ある専門書では、万葉を万重と直して翻刻しています。なぜこのようなことをするのか研究者の考えが分かりません。万葉は万葉で良いではないかと思います。しかも、それにわざわざ「まんえ」ふりがながふってあります。この専門書では、せんやうも千重咲きと翻刻しています。

せんえという言葉が無いのと同じように、まんえという言葉もないと思います。

「椿花図譜」にもこの万重がいくつかあります。327 図「絞万重」、465 図「平万重」、680 図「万重飛入」などの名前の椿があります。この復刻版本の翻刻も万重となっています。千重と同じように、重をえと読むなら万も訓読みで「よろず」と読まなければ変です。しかし、「よろずえ」という言葉は聞いたことがありません。

このような話をある年配の方としていたところ、万重咲きという事があると教えてもらいました。この方は古くからの園芸愛好家で、花に関する随筆のようなものを雑誌に執筆したこともあるそうです。なんと、バラの花の重ねの多い八重咲も万重咲きというのだそうです。また、古くから栽培されているラッパスイセンも「万重咲きの牡丹餅水仙」などと呼んでいたということです。この話を聞いて思い出しました。昔は私の近所でもしばしば見かけた八重咲のラッパスイセンのことを「まんじゅう」と確かに言っていました。農家の庭先などによく植えてあるのを見たものですが今は見かけなくなりました。子供の頃のことなのでまんじゅうを饅頭と勘違いしていたようで、忘れていました。漢和辞典で調べてみると確かに「万重」はありました。「いくえにもかさなる」の意味で李白の漢詩が紹介されていて、千重と同じ意味であることがわかります。この辞書では、ばんちょうと漢音で読むとされています。しかし、園芸的には呉音でまんじゅうと慣用読みされて伝えられていたことになります。古い園芸愛好家の言葉はともかくも、辞書に載っている言葉をなぜもちいないのでしょうか？（2025 年 11 月 21 日追記）

